

山桜の里 戸赤

雑居所掃除

相変わらずカメムシの被害が問題



今年は障子貼りまでできた

校舎裏側の草刈り



草刈り、ガラス磨き、障子貼り、軒下の草むしり、台所など、共同作業で集会所内外の大掃除を行いました。



な時でもないし手が届かない所に雑巾がけ

きれいになった

6月8日 ほぼ全員参加したこの日、身近な雑談も楽しみながら手際よく仕事を進め昼食会で労をねぎらいました。

今年は「海の子・山の子」事業で戸赤の受け入れも念頭に町で準備中との報告もありました。



軒下の草むしりも

舗装の痛みも年々進む



丸ごと水洗い



二人で貼ると能率アップ



校庭法面の草刈り

【木地の学習No.44】 菊地家は天栄村湯小屋から延享二(1745)年針生戸板沢へ移り、この後、羽鳥板小屋より佐藤勘右衛門が合流して来る。板小屋と湯小屋は、深い交流関係があったところであろう。針生には、すでに二ヶ所の木地小屋が存在していた。針生小屋 延享二年、針生村戸板沢に移る菊地家は、二年前の寛保三(1743)年に、白河藩に「永代暇願」の文書を提出している。残されている文書は、連名の後半が欠落している下書きと思われるが、それによると、「大物細工の我々にとって大木がなくなり困っている所へ、針生村に良山があると聞き、その村へ行って相談してきました。針生村の名主、百姓共は、承知したので、私共五三人の願を聞き届けて下さい」と記されている。実際に越して来るのが、それから二年後のことであるので、白河藩の許可がおりなかったのだろう。戸板沢小屋が一ヶ所増えたことで、針生村には当時三ヶ所の木地小屋が存在したことになる。①戸板沢小屋は、国道二八九号駒止トンネルの手前の右手、なだらかな辺りが屋敷跡と推定できる。右手の戸板沢側には、「延享二乙丑十一月十四日、静室妙禅信女霊」の墓石がある。菊地仁右衛門の母である。②若沢小屋は通称板橋の中曾根といわれるところで、姥神林道が、木地小屋後を通っている。元禄期から享保期にかけての墓石が二十数基確認される。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづく>

花豆 栽培



開花初期6月18日の様子

順調な成育

昨年より芽だしが遅く心配だった花豆。今のところ順調。株間、畝間を広くし採光と通風をよくすることにより大粒の実りを期待。毎々が勉強だ。



群馬県の花豆商品の数々、ネットの機関誌
読者から嬉しい便り

ことし草津温泉に行つたとき、直売所やスーパーなどでも売っていた花豆製品。群馬県の高冷地は花豆の本場。その食べ方は煮物風のものから缶詰などさまざま。地元の話では、昨年花豆のソフトクリームが日本一になったとか。戸赤の参事になればいいなと思いきや写真を撮った。

田植えも終わり 無火災祈願

田植えも終わった六月十三日、戸石では全戸対象の日帰り旅行をして懇親を深めました。無火災祈願のため古峯神社をお参りしたあと、日光東照宮ではガイドさんの案内を頼みいっぴくなくゆつくりと見学しました。物語になっている三猿の彫刻などに新たな驚きもありました。



東照宮では何百年に一度といわれる壁面の拝観にもめぐり合い満足度高かった思い出の二日